

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 安来市立布部小学校 ～

1. 活動の概要

7月16(火)、安来市立布部小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに県埋蔵文化財調査センターの職員から、古墳時代の概要と勾玉について話を聞き、布部小学校周辺の遺跡から出土した勾玉や須恵器を実際に見学しました。古墳が各地の有力者のお墓であること、また、島根県では横穴墓がたくさん造られていることも分かりました。勾玉の学習では、島根県松江市の花仙山が瑪瑙の産地で、出雲は全国でも最大規模の玉作が行われた地域だったことも学習することができました。

2. 活動の様子 勾玉のお話と勾玉づくり



布部小学校近くの横穴墓出土品を見学



勾玉づくり (その1)



勾玉づくり（その2）



古代衣装（貫頭衣）を着て、記念写真

3. 子ども塾を終えて

1)生徒の皆さんから…

- ・昔はえらい人のお墓には、たくさんの種類があったことが分かった。
- ・全国に古墳が15万基以上あること、島根県には約2600基あることが分かった。
- ・古墳になぜ勾玉などを置くかを詳しく知りたい。
- ・勾玉をまた作りたい。
- ・昔の鏡作りを試みたい。
- ・勾玉の他に古墳時代の皿などを作りたい。

2)担任の先生から…

- ・実際に学校の近くにある古墳のお話や出土品を見せていただけたことがよかった。
- ・勾玉づくりや古代衣装を着る体験も、弥生時代、古墳時代について理解を深めることや興味を持つことにつながった。
- ・配布資料だけでなく、パワーポイント等で見せてもらえると、「今このことを話している」というのがよく分かったと思う。

3)埋文センターから

- ・勾玉の「かたち」の謎、それが作られた時代と用途、それを身に着けることができた特別な人(有力者)がいたこととお話しました。とくに、有力者が眠っている古墳(横穴墓)が、布部小学校の近くにあることを紹介しました。勾玉づくりでは、実物の雰囲気が出せるように、クラスみんながそれぞれに工夫していたのが印象的でした。ありがとうございました。